

平成31年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】 ～ 日本一の高校をめざして ～

- 大阪を代表する公立高校として、教育のあるべき姿を追求し、府民から信頼され、誇りとされる学校。
- 日本や国際社会で活躍する高い「志」を持ったリーダーを育成する学校。
- 全てにおいて「チーム天王寺」として組織的に一丸となって取り組む学校。

【生徒に育みたい力】

- 自由闊達・質実剛健・文武両道の校風を理解し、深い教養を身につけるだけでなく、行事・部活動・探究活動等に積極的に取り組む意欲。(意欲)
- 目標に向かって全力を尽くすために必要な思考力・判断力・表現力と、それらに基づく行動力。(行動力)
- 世界市民として多様性を理解し協働性を備え主体的に社会貢献しようとする高い志。(志)
- 様々な個性の存在を理解するとともに尊重し合う優しさ。(優しさ)
- これからの社会を創り出していく本校生が、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓ひらいていくために求められる資質・能力(「知識・技能」に加え「思考力・判断力・表現力」と「主体性・多様性・協働性」を含む学力)

2 中期的目標

1 学力の育成

- (1) 天高スタンダードに基づいた高い学力、および新学習指導要領がめざす「知識・技能」に加え「思考力・判断力・表現力」と「主体性・多様性・協働性」を含んだ「確かな学力」の定着に取り組むとともに、新学習指導要領・高大接続改革を見すえたカリキュラム・マネジメントを行う。
- ア 授業アンケートにおいてアンケート項目の全体平均 **3.45** 以上を維持する (H30年度は4点満点で **3.47**)。
- イ 「大阪府部活動の在り方に関する方針」を踏まえ、バランスのとれた文武両道を追求する(部加入率 **95%**以上を維持)。学校教育自己診断においても部活動との両立ができている生徒の割合を向上させ、(H30年度 **74%**) **70%**以上を維持する。
- ウ 「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、授業改善に向けた取り組みをさらに進め、より洗練された指導法を開発し共有する。
- エ 高大接続改革において導入される大学入学共通テストについては、生徒・保護者に適切に情報を提供して必要十分な準備を行う。また、個別入学者選抜における改革の動向及び「主体性・多様性・協働性」に対する評価のあり方に関する検討状況について、情報収集と研究を行い、進路指導体制に反映させる。
- オ 新学習指導要領が求める観点別評価及び高大接続改革における主体性の評価について、これまでの取り組みを発展充実させ、パフォーマンス評価として、より洗練されたルーブリックの開発と共有をめざす。また、生徒の活動に対するポートフォリオ評価のあり方について研究を行う。
- カ 4技能を備えた英語力を身につけさせるため、指導方法・カリキュラムの研究を継続するとともに、国際教育の機会を通じて、学習の動機付けを行う。

(2) 学習指導の充実に取り組む

- ア 天高育成プログラムを基に、各教科で3年間を見通した学力育成プログラムを展開する。また、各教科の自主教材のさらなる充実を図る。
- イ 研究授業、公開授業を充実(教科の枠を超えた授業研究の実施)し、互いに見学する回数を1人平均5回以上にする(H30年度は **7.0**回)
- ウ 4技能を備えた英語力を生徒に身につけさせることのできる指導法を確立し、全英語科教員が取り組む体制を整備する。
- エ 「パフォーマンス評価」及びその達成度の基準を示す「ルーブリック」や「ポートフォリオ評価」など、さらに洗練された評価法を開発し共有する。

(3) 探究活動の充実、自学自習の習慣づけ

- ア 文理学科全員が学校設定科目「創知」において行う課題研究について、**2020**年度までに効果的な指導・運営・評価方法を研究し、全教科教員で支援する体制を確立する。研究の成果をグローバルリーダーズハイスクール **10**校で共有し、新学習指導要領の新科目「理数探究」のモデルを大阪から全国に発信する。
- イ 桃陰セミナーの活用を一層推奨する。 → 土曜日は学校で自学自習の習慣づけ
- ウ 部学習日を充実させる。 → 同じクラブ内での相互指導と学習

2 グローバル社会に貢献できる人材の育成

(1) グローバルリーダーの育成

- ア 英語圏との交流、アジア各国各地域との交流、国内での国際活動を通して国際教育を充実させ、全ての生徒に国際感覚を身につけさせる。
- イ アジア各国との交流を、①アジア理解とアジア研究、②アジアの若者との英語による交流、③国際研究活動の機会として継続する。
- ウ SSH拠点校として、グローバルリーダーズハイスクール**10**校対象の海外研修を企画・運営し、その成果を広く共有する。
- エ 科学に秀でた人材の育成をめざし、SSHの重点枠を活用して大阪サイエンスデイや近畿サイエンスデイ等を運営するとともに、重点枠更新を目標に広域での拠点校の取り組みを策定する。

(2) 生徒理解の促進と安心な学校づくりのための体制の確立をめざす。

- ア 教育相談委員会の充実をはかり、担任、学年団、カウンセラーと連携し、様々な原因でつまずきを感じる生徒を支援する。
- イ H19年に学校教育法が改正され、「高校においても障がいのある生徒に対し、障がいによる学習上または生活上の困難を克服するための教育を行う」と規定されたことを踏まえ、天王寺高校としての生徒への支援体制を確立し、発達障がいに関する共通理解を深め、インクルーシブ教育推進を行う。

(3) 京都大学・大阪大学・大阪教育大学・大阪工業大学との連携協定に基づきグローバルリーダーズハイスクールの事務局校として各大学との連携を進める。

3 教員の資質の向上

- ア 新規採用教員に対して実施している「桃陰塾」を継続発展させて教科指導力、生徒指導力の育成をはかる。
- イ 教員の働き方を見つめ直すとともに、経験の少ない教員の教科指導力と生徒指導力を育成する。中堅教員に学校運営の視点を身につけさせる。
- ウ 外部教育機関の経験豊かな教員や広報担当者を招聘し、授業展開や新たな高大接続のあり方に主眼を置いた研修会を開催する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力の育成	<p>(1) 天高スタンダードの実施と検証を行い各教科の到達度を高める。中教審答申に示された「確かな学力」を生徒に身につけさせる。また、新しい入試制度を研究する。</p> <p>(2) 学習指導の充実に取り組む。</p> <p>(3) 探究活動の充実、自学自習の習慣づけ</p>	<p>(1) ア・教科運営委員会で天高スタンダードを点検、整備していく。授業アンケートの結果を高いレベルで維持する。</p> <p>イ・部活動方針を踏まえたバランスのとれた文武両道を追求し、学校教育自己診断においても部活動との両立ができてきている生徒の割合を向上させる。</p> <p>ウ・「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、アクティブラーニングなどの指導方法を含む授業改善に取り組み、質の高い深い学びのある授業実践を行う。</p> <p>エ・高大接続改革に関する研修会や説明会に参加し、校内での情報共有を行い、可能な範囲で日々の授業等に反映させる。</p> <p>オ・「ルーブリック」を活用した「パフォーマンス評価」を導入し、課題研究等の評価方法を確立する。また、「ポートフォリオ評価」の研究を進める。</p> <p>カ・科学オリンピック対策講座を開催する。科学オリンピックへの参加者 150 名以上を維持する。</p> <p>キ・新学習指導要領による新たな教育課程の編成を進める。</p> <p>(2) ア・研究授業、公開授業の充実</p> <p>イ・授業改善の取組みの一つとして、授業評価アンケートの質問項目の見直しを行う。</p> <p>ウ・4技能を備えた英語力を身につけさせる。</p> <p>(3) ア・「創知(総)」「創知」における指導・運営・評価方法と、全教科教員による指導体制を継続する。</p> <p>イ・桃陰セミナー、部学習日を充実させる(土曜日を活用した自習活動)。土曜日の半日を「部学習日」として部単位で自学自習を継続し推奨する。</p> <p>ウ・学習意欲を増加させるとともに自己の将来を展望させるための勉強合宿を2・3年生対象に行う。</p> <p>エ・大学進学実績の維持</p>	<p>(1) ア・天高スタンダードの改訂を継続する。授業アンケートの全体平均3.45を維持する。(H30年度3.47)</p> <p>イ・部加入率 95%以上を維持 (H30年度99%)。学校教育自己診断において部活動との両立ができてきている生徒 70%を維持する (H30年度74%)</p> <p>ウ・学校全体で授業改善の取組みを進め、学校教育自己診断において、授業満足度 90% (H30年度87%) 進路希望達成に必要な学力をつけてくれる 75%以上をめざす。(H30年度72%)</p> <p>エ・高大接続改革に関する研修会や説明会での情報を職員会議で共有する。(1回以上)</p> <p>オ・「ルーブリック評価」の研究をさらに進め、共有し活用する(課題研究等で活用)。「ポートフォリオ評価」に関する研究会等に参加し、職員会議等で共有する。(1回以上)</p> <p>カ・科学オリンピック対策講座開催。科学オリンピック参加者 150 名以上を維持し、2名以上の受賞者を出す。 H29 263名内、受賞12 H30 325名内、受賞9</p> <p>キ・カリキュラム委員会における検討を行う。</p> <p>(2) ア・授業見学(5回以上)</p> <p>イ・授業評価アンケート質問項目の改訂</p> <p>ウ・スピーキングテストと4技能対応授業の継続</p> <p>(3) ア・「創知」を指導する教員を25名以上配置する講座編成を行う。2年生徒360名が課題研究の成果物を完成する。</p> <p>イ・桃陰セミナー参加者数の維持。1日平均250名以上(H30年度1日平均244名)を維持する。 ・部学習日の参加者数の総計500名以上をめざす。</p> <p>ウ・勉強合宿参加者の満足度80%以上。</p> <p>エ・センターテスト5教科受験出願率、学年の95%以上を維持。(H30入試98%)国公立大学合格者現浪合わせて270人以上の維持。 (H30年入試277人)</p>	

<p>2 グローバル社会に貢献できる人材の育成</p>	<p>(1) グローバルリーダーの育成</p> <p>(2) 生徒理解の促進と安心な学校作りのための体制の促進</p> <p>(3) 京都大学・大阪大学との連携</p>	<p>(1) ア・海外研修や国際行事など、国際感覚を身につける機会を充実させる。海外修学旅行(台湾)を継続し、成功させる。派遣型研修として、米国研修を継続し、発展させる。引き続きオーストラリア研修、台湾研修を実施する。受入型交流として、台北第一女子高級中学(4月)、韓国慶南女子高校(1月)との交流を実施する。シンガポール語学研修を継続する。</p> <p>イ・国際教育活動において、交流相手校生徒との交流を深めるため、国際交流委員を募り、中身の濃い交流プログラムを確立する。</p> <p>ウ・SSHの重点枠を活用して大阪サイエンスデイや近畿サイエンスデイ等を運営する。</p> <p>エ・天高アカデミアを継続実施する。</p> <p>オ・SSH事業をはじめとする様々な取組みの成果をHPなどの媒体を通じて発信し、広域での成果の共有を図る。</p> <p>(2) ア・支援コーディネーターの専門性を高め教育相談機能を充実させる。生徒情報の共有システムを充実させる。</p> <p>イ・支援コーディネーターと養護教諭を中心にチームで対応する体制と配慮を要する生徒の指導方針を充実させる。</p> <p>ウ・非常変災時における対応を整理し、防災体制を充実させる。</p> <p>(3) 京都大学、大阪大学との連携協定に基づき両大学と連携を維持する。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断でSSH・GL事業の満足度90%以上とする。</p> <p>イ・国際交流委員の事後アンケートによる効果検証を行う。</p> <p>ウ・大阪サイエンスデイは、H29同様に2部構成とし、成功させる。近畿サイエンスデイを継続実施する。</p> <p>エ・天高アカデミアの満足度80%以上を維持する。</p> <p>オ・より閲覧しやすいHPを作成し、コンテンツの積極的な更新を行う。</p> <p>(2) ア・研修等に2回以上参加する。そのスキルを教員間で共有する。</p> <p>イ・合理的配慮をおこなうためのノウハウと実践結果を積み上げ、継承していく。</p> <p>ウ・非常変災対応の改訂と周知を行う。</p> <p>(3) 京大キャンパスガイド、阪大ツアー等を継続する</p>	
<p>3 教員の資質の向上</p>	<p>・経験の少ない教員の育成 ・中堅教員の教育力向上 ・学校運営のあり方検討</p>	<p>ア・桃陰塾(着任後の年数が少ない教員の勉強会)→首席を世話役として年間7回程度の自主的勉強会(先輩教員の講演、ワークショップなど)を行う。年間を通して、教員間等での授業研究を促進する。</p> <p>イ・教科指導力の向上をめざして外部講師等の指導法講習会への参加を促進する。</p> <p>ウ・本校の文武両道の理解推進。天高育成プログラムの理解の増進。学校運営のあり方検討。</p> <p>エ・教員の働き方を見直す一環として、教科指導における優れた取組みの共有により、教材準備の効率化を図る。</p>	<p>ア・桃陰塾参加者の満足度80%以上。</p> <p>・公開授業を含む研究授業等を学校全体で10回以上行う。</p> <p>イ・外部講師による指導法講習等への参加のべ5回以上。</p> <p>ウ・学校行事を含め、学校運営のあり方を見つめ直す。学校運営のためのブレインストーミングを行う。</p> <p>エ・授業改善の取組みを職員会議で共有する(年3回以上)。</p>	